



## 令和7年度 学校運営協議会を視察しました NO.3



### 2/24 県立北斗高等学校

第4回学校運営協議会には、委員の他に同校の教職員22名も出席しました。はじめに、定時制（午前部、午後部、夜間部）と通信制の課程の各分掌主任から活動報告が行われました。次に、教頭先生から学校評価について説明がありました。委員からは、「アンケートによると、学校は生徒たちから高評価を得ている」情報を共有しながら多方面で学校と協力していきたい」などの意見や感想がありました。その後、校長先生より説明のあった次年度の学校経営方針案が、委員から承認されました。委員、生徒、教職員が熟議を重ねて開催した「北斗サタデースクール」と「北斗サタデーフォーラム」は、北斗高校にとって、大きな成果になったと感じました。



### 3/4 鶴田町学校運営協議会

鶴田町では、教育委員会教育次長、小中学校の管理職、PTA 会長、地域学校協働活動推進員、鶴田町 GIGA スクールサポーター、下山学園高等学校長等19名が、同町の学校運営協議会委員に任命されています。この日の協議会では、はじめに、鶴田小学校で行われた「米作り体験」、鶴田中学校で行われた「避難所防災訓練」等、今年度の地域学校協働活動の報告が行われました。次に、小中学校の令和8年度学校運営の基本方針の案が委員から承認されました。委員からは、家庭でのスマホの使い方や学校運営協議会分科会の開催の検討、鶴田町のビジョンの作成について意見が出されました。



## 令和7年度 コミュニティ・スクール関係者研修会

2月9日（月）弘前市立中央公民館岩木館にて、弘前市教育委員会主催の「令和7年度コミュニティ・スクール関係者研修会」が開催されました。

本研修会には、コミュニティ・スクール（以下「CS」という。）を基盤とした学校と地域の連携・協働について理解を深め、学校運営協議会と地域コーディネーター、教職員の資質向上及び情報交換を図ることを目的に、学校運営協議会委員、地域コーディネーター、学校管理職35名が参加しました。

最初に、市教育委員会から、小学校で行われた防災教育（避難訓練）など今年度の地域学校協働活動の事例紹介がありました。

次に、当課担当者が講師を務め、「充実したコミュニティ・スクールとなるために」をテーマに、行政説明と事例紹介を行いました。続くグループワークでは、参加者が熟議を体験しました。

終了後のアンケートには、「CSについてさらに理解できた。地域のために委員と協力を深めていきたい」「若い人たちも参加できる仕組みがあればよい」「地域コーディネーター同士の情報交換の場がほしい」などの意見や感想がありました。





# 令和7年度 学校・家庭・地域連携推進委員会



令和7年度学校・家庭・地域連携推進委員会を2月上旬、書面により開催し、CSと地域学校協働活動の一体的推進及び放課後児童対策の在り方について検討しました。

青森中央短期大学非常勤講師である松浦 淳 委員長をはじめ、委員には、学校教育・社会教育・行政等の関係者15名が委嘱されました。委員からは、第1部「放課後児童対策について」、第2部「CSと地域学校協働活動の一体的推進について」の内容に関する県内の活動状況や課題、県事業に対する意見が出されました。

委員会は下記のとおり総括されましたので、御紹介します。

## 第1部 放課後児童対策について

「放課後のこどもの豊かな時間の確立」に向けて、以下の取組が必要。

### ○運営体制の改善と安全確保

- ・地域住民の協力を得た多様な体験活動が、県内各地で展開されている一方、地域によっては慢性的な支援員不足への対策と地域の実情に応じた運営が求められている。
- ・支援員と学校教職員との良好な関係性の構築及び学校施設活用における学校との連携強化が児童クラブや放課後子供教室の運営継続には不可欠である。
- ・災害時を含む安全体制の強化と地域連携による安全・安心な居場所づくりが推進されることが望ましい。
- ・支援員の確保・定着に向けた処遇改善や広報活動の支援、学校再編等の環境変化に対応した地域全体での持続可能な運営体制の構築が求められる。

### ○多様なこどものニーズへの対応

- ・発達特性のある児童への専門的な支援（専門職との連携、研修）、活動内容の多様化、遊び・学習環境の充実に向けた支援が求められる。
- ・多様なこどもの個別ニーズに応じた、きめ細やかな支援体制の構築が望まれる。

### ○支援員の資質向上への取組

- ・研修においては、支援員が参加しやすくなるよう環境を整備することと、参加者のニーズに応じた研修内容になるよう工夫することの両立が求められる。
- ・研修内容について、特別な支援を要するこどもの理解や自然災害も含めた危機管理等、より実践的で多様なニーズに応えられる内容と多様な研修機会の提供を検討する必要がある。

## 第2部 CSと地域学校協働活動の一体的推進について

### ○CSと地域学校協働活動の一体的推進に向けて（市町村、県）

- ・少子化の進行、特別支援教育のニーズの増加、地域における人財不足といった社会の変化の中で、CSと地域学校協働活動の一体的推進が、持続可能な学校運営と質の高い教育実践のために不可欠である。
- ・学校運営協議会が活性化することにより、学校の風土が「見える化」され、児童生徒が安心して活動できる環境の創出につながることを期待される。
- ・学校運営協議会委員の選定においては、教育及び地域活動の経験者、地域住民以外の有識者や企業関係者の他、社会教育・保育・心理・医療関係者等、学校及び地域の実態に応じて、多様な分野の人財を配置することが望ましい。
- ・学校運営協議会では、学校と地域が「どのようなこどもを育てたいのか」というビジョンを共有し、熟議によりビジョンの認識を深めることが大切である。
- ・CSの導入や地域学校協働本部の整備には、学校側に相応の労力を伴う実情がある。行政には、その点を理解した上での学校への支援が求められる。また、持続可能な活動のための財源確保も求められる。

### ○県立学校における地域学校協働活動推進員の配置

- ・地域の方々による学校や生徒に対する理解の深まり、児童・生徒の地域における活動機会の増加、生徒の就職先となり得る企業とのつながりの強化、教職員の業務負担軽減等、多岐にわたり、地域学校協働活動推進員配置の効果が見られる。
- ・小・中学校と比較し、県立学校は通学区域が広域であり、地域の捉え方が異なり、連携の範囲が多様であることから、生徒の居住地や卒業後の進路先を見据えた広域的な連携強化が求められる。
- ・広報誌に限らず、SNSも効果的に活用した情報発信により、地域住民や生徒への理解を一層促進する必要がある。また、学校規模や立地、学校が抱える課題に応じた地域学校協働活動推進員の人選が重要である。



## 令和7年度つがる市地域学校協働活動推進員第2回研修会及び情報交換会

令和8年1月27日（火）つがる市生涯学習交流センター「松の館」で、地域学校協働活動推進員を対象とした「令和7年度つがる市地域学校協働活動推進員第2回研修会及び情報交換会」が開催されました。つがる市では地域学校協働活動（以下「協働活動」という。）が始動して5年が経過したことから、改めて「協働活動とは何か」を再度学習し、地域の実状に沿った活動ができるようにするという趣旨のもと、秋田大学非常勤講師、元CSマイスターでもある 皆川 雅仁 氏を講師に迎え、熟議と講義を通して参加者が今後の活動について考えました。今回は、オブザーバーとして、CS導入を検討している近隣市町村の担当課職員も参加し、熟議では参加者と一緒に、自身がこれまで行ってきた協働活動について共有しました。

### 🌸 研修テーマ 🌸

「地域と学校が協働するということ

～なぜ地域と学校が横並びになるツールとしてコミュニティ・スクールを活用するのか～

**\* 熟議 \*** つがる市の子どもたちが、ふるさととのかかわりを深めるために私たちができることは？

オブザーバーの皆さんも参加して、付箋を使用した熟議を行いました。つがる市では行っていない協働活動についても多く紹介され、とても良い雰囲気での熟議となりました。



熟議のまとめでは、一番印象に残った内容を各自が模造紙に張り出し、つがる市の魅力いっぱいのオリジナル構想が完成しました。

**\* 講義 \***

熟議の内容を踏まえて、改めて協働活動についての講義を聞きました。「対面ではなく、横並びでなければ同じ方向を向けない」という言葉がとても印象に残った講義でした。



- ・大人が真剣に課題に取り組む姿を子どもたちに見せたいと思った。
- ・刺激を受けたので、現場でも活かしたいと思った。
- ・CSの導入に当たり、大変参考になった。
- ・つがる市の推進員の方と話す機会ができ、良かった。思いのある人が多く、心強いと思った。 との声をいただきました！

参加者やオブザーバーの方から大変好評で、市教育委員会担当者は、来年度以降も協働活動に関わる方を対象とした研修会を開催したいと考えているそうです。